**鎌田　慧 （かまた・さとし）**

**１、プロフィール**

昭和45年頃よりルポルタージュ作家として雑誌「現代の眼」「中央公論経営問題」などに作品を発表する。『ドキュメント隠された公害』を始めとして、現代を鋭く追求する。

＜生没＞

1938（昭和13）年６月12日 ～

＜代表作＞

『死に絶えた風景』『自動車絶望工場』『血痕』『六ヶ所村の記録』『鎌田慧の記録』全６巻

＜青森との関わり＞

弘前市に生まれ、市立朝陽小学校、市立第四中学校、県立弘前高等学校と進み、上京後、３年間工場で働いた。

**２、作家解説**

弘前市立朝陽小学校、市立第四中学校、県立弘前高等学校と進み、上京。３年間町工場で働き、昭和35年早稲田大学文学部露文学専修に入学した。39年卒業後、鉄鋼新聞社に入社､41年雑誌「新評」編集部に転職し､＜対象にもぐりこみ体験取材する＞独自の方法論を磨いた。43年退職してフリーライターとなった。

45年『ドキュメント隠された公害』を出版したのを初めとして、その後多くのルポルタージュを世に問うた。平成３年まで、出版点数は89冊を数えている。

平成元年に刊行した『反骨－鈴木東民の生涯』は、翌年新田次郎賞を、また３年に刊行した『六ヶ所村の記録』全２巻は毎日出版文化賞を受賞した。

３年には岩波書店より『鎌田慧の記録』全６巻が刊行された。

**３、資料紹介**

〇『鎌田慧の記録』全６巻

図書

1991（平成３）年５月27日～10月25日

195mm×137mm

これまで多くの優れたルポルタージュを刊行しているが、この『鎌田慧の記録』は雑誌などに発表されたものの中から自選したルポルタージュ集である。各巻末に載せる第一線で活躍するルポルタージュ作家との対談も面白い。